



2019

## 付中通信第5号

# 経験値って何？

2019.7.26

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

本校ユネスコ部は創設 60 年にも及び、高水高校のクラブの中でも最も長い活動歴を有します。私は現在、岩国ユネスコ協会副会長という肩書まで持っていますが、在学中はユネスコとは全く無縁な生徒でした。私がユネスコと出会ったのは、高水に教師として赴任した 30 年ほど前、顧問を任された時でした。

しかし、顧問になったからと言って、ユネスコのことを理解して部員を率いていたわけではありませんでした。そんな私が本当にユネスコと出会い、それが生徒らの成長を強く後押しする活動だと思い知ることになったのは、2004 年の夏、第 50 回全国高校ユネスコ研究大会への参加がきっかけでした。

この大会は、熊本県水俣市・芦北町に 250 名に及び全国の高校生が集結して開催されました。ユネスコのテーマを掲げたいくつかの分科会が設定され、高校生の実行委員が運営し、総括も取り仕切っていました。もちろん、先生方の実行委員会もその背後にはあるわけですが、その存在を微塵も感じさせない程、高校生らの動きぶりはみごととしか言いようがありませんでした。



このような場で活躍できる高校生は、残念ながら当時の高水にはいませんでした。また、大会中インドの世界寺子屋等の視察に行ってきた高校生の報告を聞いた時、本校の高校生がこのような体験を皆の前で語る日がいつかやって来るのだろうか、驚きと羨望をもって彼らの物語に耳を傾けていました。

語に耳を傾けていました。

あの日から 15 年の歳月が流れ、今本校ユネスコ部は全国的に有名と言ってよいほどのクラブに様変わりしました。カンボジアスタディツアーに参加し、報告会を開いた生徒は延べ 10 名に達しています。

高校生の全国大会は、熊本の後広島、沖縄と回数を重ねましたが、そこであっさり立ち消えてしまいました。でも 2005 年の広島大会では本校から 7 名が実行委員として立ち、それからはどんな大きな大会でも立派に活躍できる生徒を数多く輩出してきました。

2012 年には岩国協会青年部が第 44 回ユネスコ子どもキャンプを引き受け、高校ユネスコ部の現役高校生とその OB らが、この困難の多かった大会をやり遂げました。また、この年、高水は念願のユ

ネスコスクールの認定を受け、活動の輪が全校的な取り組みへとシフトチェンジしました。

そこで振り返って思うことは、ひとつ。

子どもたちの可能性を押し上げるも押し殺すも、われわれ教師の働き如何だということです。教師に限らず、大人はつい子どものせいにしてがちです。子どもの可能性について、常にわれわれに責任があることを忘れてはなりません。

中高生は彼らにふさわしい環境と

条件を与えてやりさえすれば、見る間に変貌を遂げ、短期間でその成長ぶりは手に取るようにわかります。私がこの仕事を選んでよかったと思うのは、教師はそんな中高生の成長を間近に見ていられる仕事だからです。

課題の発見ができる生徒を育てることが、学校教育の大きな柱の一つになりつつあります。本校はその能力を、経験値を高めることによって高めたいと考えています。経験とは実際に見たり、聞いたり、行ったりすること、それによって得られた知識や技能などのことだと定義されています。

ユネスコ活動は経験値を上げる活動、もっとわかりやすく言えば、人の成長を飛躍的に促す活動です。

